

添付:「JALスカラシッププログラム」の経緯と実績

1. 発足に至る経緯

1970年代初め、高度成長期の日本の行動に対する批判がアジア各地で高まり、日本製品排斥運動や日本批判の嵐が吹き荒れていた。その中で田中角栄元首相が1974年にJAL特別便でアセアン諸国を訪問した際、タイやインドネシアで学生を中心とする反日デモに遭遇した。これを知った当時のJAL社長(朝田静夫)は、JALが乗り入れているこの地域の若者に実際の日本の姿を見てもらえば相互理解を促進することができると考え、日本とアジアの友好のために「JALスカラシッププログラム」を1975年に発足させた。その後2度にわたるオイルショックなど、厳しい経営状況の時期もあったが、毎年継続実施し、2000年には25周年を迎えた。

2. 発足後昨年までの実施年度と対象国および参加者数

1975年より毎年1回実施し(但し、1976年のみ春・夏2回実施)、2001年で28回目となった。初年度は香港・インドネシア・マレーシア・フィリピン・シンガポールから30名を招待した。その後順次対象とする国・地域を拡大していったが、1992年度からアジア・オセアニアに絞ることとした。昨年までの総参加者数は1,151名になる。

【2002年までの国・地域別参加者数、及び、2003年度参加予定者数】

	期間	累計	2003年度予定者数
香港	'75～'97	106名	－
フィリピン	'75～	126名	3名
シンガポール	'75～	126名	3名
マレーシア	'75～	125名	3名
インドネシア	'75～	126名	3名
タイ	'76～	122名	3名
米国	'77～'91	63名	－
ブラジル	'80～'90	24名	－
韓国	'81～	86名	3名
オーストラリア	'83～	54名	3名
ニュージーランド	'83～'01	34名	2名
中国	'85～	86名	2名
台湾	'91～	42名	－
ベトナム	'92～	31名	3名
総計		1,151名	28名

注) 香港からの参加者は、98年から中国へ計上

3. 卒業生の組織化

JALスカラシップの卒業生の多くは、各国・各界の第一線で活躍しており、90年にはマレーシアで大臣が誕生した。ほとんどの国では、国単位の同窓会を組織しているが、93年から全卒業生を対象とした国際的な組織作りを開始した。